

重点目標		総合評価					
①生徒一人一人を大切にし、自ら考え学ぶ態度を育てる ②生徒が将来の目標を持つための「きっかけ」を見つけられる環境づくり ③地域(社会)、保護者、学校の連携を密にした、開かれた学校づくり ④多様な生徒の実態に対応できる特色ある教育の充実		人間関係作りを通して学校生活への適応を促進することをねらいとした科目(野外教育プログラム等)を開講し、生徒の友達つきあいを深化させ、自己概念のなかでも自己成長的な意欲や態度をつけさせていきたい。特色ある科目として来年度に向けて開講方法を工夫等を行っていききたい。 生徒会活動・地域ボランティアなどの生徒の主体的な活動や社会参画を後押しした。準備・本番では本校生徒が積極的に関わった。来年度も、より一層盛り上げていくために準備をしている。 来年度に向けての改善点について更に検討し、より良いものにしていく。					
今年度の重点目標		成果と課題					
①	笑顔で元気よく挨拶できる礼儀正しい人の育成	要改善項目は、1つもなかった。					
②	生徒指導の徹底と生活習慣の確立により、自主性と責任感を重んじる態度を養う	B評価の付いた項目「校内施設、設備の不備を点検し、安全で、学習しやすい環境づくりのため、改善を図ることができたか」では、職員全体で努力し、現有の施設を上手に使用、修理していく。					
③	生徒のみならず、保護者も交流・情報交換ができる場としての開かれた学校づくり	来年度も生徒の自己肯定感を育み、地球環境高校での学びに充実感を持てるように、丁寧に寄り添う指導を継続したい。					
④	多くの生徒が来校できる雰囲気をつくり、生徒同士交流が図れるようにする						
⑤	目標を持たせ、自己実現を図る						
領域	対象	評価項目(活動目標)	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策	
教育活動	全般	キャリア教育の推進	自己肯定感や他者との関わる力を育むため、教科指導・「総合的な学習の時間」・行事等の学校諸活動の中でキャリア教育的観点に立った体験活動を経験させる。	進路講演会・企業見学等や生徒の対話の中でアドバイスを行い、自己の将来像を意識させることができた。また、学校設定科目「キャリア学習」において、自分の今後を自分の考え、適切に行動することができる生徒が増えてきた。	B	学校設定科目「キャリア学習」の内容をさらに充実させるため、レポートの改善に取り組む。また、生徒に諸行事への参加を促し自己肯定感を育む。	
	学習指導	教育課程	2	課題を点検し、生徒の実態に即して改善できたか。	基礎学力定着の目的から設定している「基礎数学」、「数学活用」は単位修得につなげることができた。学習習慣のない生徒は途中で諦めてしまう傾向が見られた。レポート内容も含め今後もさらに生徒の実態に即した内容となるように見直していく。「国語表現」は、進路実現につながるような作文の基礎的な学習の内容も含むので、必修としている。	A	新たな取り組みが、生徒の実態に即した改善であったかどうか検証し、より良い方向性を模索していく。
			3	添削指導や面接授業において、わかりやすい説明に心がけ、生徒の興味関心を引き出すことができたか。	昨年度に引き続き視聴覚的効果を高める教材を授業に入れた。また限られた面接授業時間を補うための補助プリントの作成に取り組んだ。	A	個々への丁寧で解りやすい添削や個別指導を継続し、新たな教材の研究や面接授業の工夫に取り組む。
		4	個々の生徒の単位取得につなげられるよう、指導内容や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。	時間割の見直しにより、空き時間の解消を図った。これにより生徒の負担を減らし、効率的な学習環境の提供ができた。	A	レポート提出後に指導期間を設ける締切設定の改善を行っていく。	
		5	学習意欲を喚起するための情報発信や支援ができたか。	スクーリング以外の学習機会を設定し、成果をみることもできた。また、個々にこまめに連絡することで効果が上がっている。	A	各学習室での学習室通信は、これからも誌面充実に力を注いでいく。	
		6	学校生活を送るうえでふさわしい態度やマナーを身に付けさせることができたか。(授業中のマナー、禁煙、学習室の利用方法)	禁煙、学習生活等、全体のマナーは毎年よくなってきている。継続指導を怠らない姿勢で取り組んでいる。	A	些細なことでも、職員全体の共通理解をするために、職員会で連絡する。担任のみならず、学年、係全体で解決の方向に向けて対応する。	
	生徒指導	集団生活のルールとマナー	7	バイクや自動車の通学許可制を導入し、交通マナーを向上させることができたか。	全職員の注意喚起のおかげで、マナーもよくなっている。通学許可制は、しっかり定着している。	A	バイクの騒音等については、根気よく全職員で指導していく。また、佐久警察署の巡視をお願いしていく。
			8	携帯電話の活用方法(LINE等)や、校内外の巡視によって、安心・安全な環境づくりに努めたか。	外部講師の講演により、携帯電話での問題事案は発生していない。	A	来年度も、携帯電話の活用について外部講師に依頼していく。
		安全・安心な学校づくり	9	人権意識を育てるとともに、生徒の変化を見逃さず、トラブルの未然防止に向けた取り組みを行いことができたか。	全職員での一人ひとりの生徒についての共通理解ができています。	B	引き続き、職員間の情報の共有とコミュニケーションを忘れずにしていく。

		相談支援	10	個々の生徒が抱えている課題を共有し、学習活動につなげる支援ができたか。	担任、学年、全職員との情報の共有・連携がスムーズに行われ、個々の指導に役立てることができた。	A	カウンセリング希望等に応えられるようより充実した体制作りのための関係機関への協力を要請していく。
進路指導	進学、就職指導の充実		11	個々の進路希望を把握し、本人の希望、適性に沿った指導ができたか。	生徒の希望を受けながら、係・担任以外の職員も協力し、進学指導・就職活動を通して各生徒の成長を促し、志望した進路先に歩みを進めさせることができた。	B	就職希望者には、就職ガイダンスや企業見学の受講を勧め、講演会や講座に参加する機会を増やし、進路に対する意識を高める。進学者に対する講演会・ガイダンスを企画し実行していく。
			12	進路ガイダンスと等を通して、情報を提供し、上級学校や職業について理解を深めさせることができたか。	希望管内の求人一覧の送付や地域講演(地域の会社経営者)により進路への意識を高めることができた。	A	
生活指導	生徒自主活動の充実		13	生徒会や地区活動の活性化を図り、生徒自ら計画、実行できるよう支援することができたか。	地区の文化祭・お祭り等の行事に自ら参加、文化祭の計画・実行できるよう支援ができた。多くの生徒が参加できるように、呼びかけたり、工夫したりすることが必要である。	A	さらに、地区活動をアピールしたり興味・関心を持てるように考えていく。
			14	生徒自身が清掃に取り組む機会を増やし、校内美化に努めることができるか。	野球部を中心に、週一回ペースで校内外の清掃、さらに冬季の校内外の雪かきも実施している。	B	野球部と他の生徒と協力して、継続的に実施する。
学校運営	学校運営	円滑な学校運営	15	学校全体の教育活動が円滑に進むよう、外部関係機関等(地域の企業経営者)との効果的な連携を図ることができたか。	HPや学校案内パンフレット、外部関係機関(地域の企業経営者)等、互いの連絡を密に取り進めることができた。佐久地区の中学校の校長・教頭・進路指導主事より本校だけの学校概要の講演会の依頼をいただき、理解していただいた。	B	他の外部関係機関とのさらなる連携を図る。生徒の実態に合わせて、通信制の発表のあり方について検討していく。転籍生徒の受け入れについては、丁寧に情報交換を行い、連携していく。
			16	生徒のデータ管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	チェック体制のもと多様な生徒の膨大なデータを支障がないよう正確に処理が行えた。	B	チェック体制をより充実させ、管理規定に従った管理を徹底する。
			17	校内施設、設備の不備を点検し、安全で、学習しやすい環境づくりのため、改善を図ることができたか。	予算的な面もあり全ての改善をすることは難しい。現有の施設・設備を上手に使用していく。	B	生徒の学習意欲向上のためにも学習環境改善へ向け、職員も努力するとともに、改善・検討していく。
			18	本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	生徒の実態に応じて各係等での検討・改善を行い、職員間での情報共有が行えた。	B	各係だけでなく、学校全体での情報共有にも引き続き取り組む。
	開かれた学校づくり	19	新聞、地域新聞(佐久市中央商興会報)やホームページに掲載する内容の工夫改善を図り、わかりやすい情報を提供できたか。	年3回の「佐久市中央商興会報」の発行、諸行事のHPへのアップや情報の更新が行われ、わかりやすい情報が提供できた。	A	HPの掲載する内容については、中学生や地域の方々により多くの情報が提供できるように工夫する。	
		20	保護者や地域との連携強化を図る取組を行うことができたか。	環境整備作業(野球部、保護者によるグラウンド設備補修:ネット等)、文化祭への参加協力等を頂いた。	B	通信制の特殊性に甘えることなく取り組みの機会を見つける努力をする。	
					評価	内容	
					A	優れている(優れている状況にある)	
					B	良い(良い状況にある)	
					C	おおむね満足(課題はあるがおおむね満足できる状況にある)	
					D	要改善(課題が多く速やかな改善が必要な状況にある)	
◇学校関係者評価報告							
・「評価の観点」⇔「成果の課題」⇔「改善策・向上策」が今まで以上に相関する記述になってきて良い。行き当たりばったりや抽象的な「評価の観点」ではなく、年度末に評価しやすいより具体的な記述になることを期待している。							